



今月は発行が遅くなってしまいました。(すみません🙇)

11月は、18日に、「第一回館長カフェ」を行い、校長先生によるブックトークを開催しました。参加者からは大変好評で、「また次回も!」という声がありましたので、近日中に計画したいと思います。開催日が決まりましたら、アナウンスいたしますね。

また、今月のBOOKSTATIONは、初の試みで、丸山先生に本の紹介をお願いしました。みなさんは、お正月に箱根駅伝は見ていますか?私(飯山)は、熱心にスポーツ観戦をする方ではないのですが(時々埼スタには行きます!）、箱根駅伝は楽しみにしています。毎回ドラマがあり、胸が熱くなりますよね。丸山先生による池井戸潤さんの『俺たちの箱根駅伝』紹介、ぜひご一読ください!

## 📖 ただ今(11/21)の貸出合計! 📖

1-1 395冊	2-1 243冊	3-1 180冊
1-2 317冊	2-2 376冊	3-2 20冊
1-3 669冊	2-3 479冊	3-3 31冊
1-4 322冊	2-4 229冊	3-4 61冊
1-5 358冊	2-5 451冊	3-5 30冊
1-6 376冊	2-6 274冊	3-6 60冊
1-10 56冊	教師・学校間貸出) 309冊	計5,288冊



## 個性豊かな登場人物たちの熱い想いに共感します!!

さいたま市立大原中学校 丸山夏希

今回私が紹介する本は、池井戸潤さんの『俺たちの箱根駅伝 上・下巻』です。この本は毎年1月2日・3日に開催される「東京箱根間往復大学駅伝競走(通称「箱根駅伝」)」を題材にしたお話です。

私は昔から「箱根駅伝」のファンで、中学の進路選択は将来箱根駅伝に出場することから逆算して選びました。だからこそ、この本を書店で見つけたとき、迷わず手に取り、1日で上・下巻とも読み切ってしまいました。

そんな『俺たちの箱根駅伝』の魅力は、なんといっても様々な登場人物たちの「箱根駅伝」にかける想いです。主人公の青葉隼斗選手は、チームのため、仲間のため、そして自分自身のため、予選会・本戦と奮闘していきます。突然の監督交代やライバルの登場など、「箱根駅伝」を実際に走るまでの選手の青春や苦労が、とても丁寧に描かれていました。私自身の経験にも当てはまる出来事がいくつもあり、途中から主人公になりきって読んでしまいました。

そして、この本には選手の他にもスポットライトが当てられている存在がいます。それが箱根駅伝を中継するテレビ局員です。私自身、この本を読んで「箱根駅伝」という番組を成り立たせるために、これほどまでの苦労があるのかと驚嘆しました。番組を盛り上げるための演出や選手を際立たせるための演出など、普段何気なく観ていた「箱根駅伝」の新しい魅力に、この本は気がつかせてくれました。この気持ちを早く箱根駅伝を観ることで消化したいです。

人によっては毛嫌いしがちな、長距離種目の代名詞とも言える「駅伝」を題材にした本作ですが、これから将来のことで悩みながら未来をつかみ取っていく皆さんにぴったりなお話だと私は思います。ぜひ図書室で見かけたら読んでみてください。

📖11月27日(水)から、POP人気投票を行います! 掲示してあるPOPから、お気に入りのPOPのナンバーを記入して、カウンターに設置したボックスに入れてください。

📖また、「本のクリスマスツリー」を作ります。好きな本のタイトルと、ひとこと記入してもらえたら、それをツリーの飾りにしますので、みなさん、ご協力をお願いします!